

東日本大震災発生から 22 カ月 CIVIC FORCE の活動報告

仮設住宅に届けられたおせち

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

2013 年 1 月、東日本大震災発生後 2 度目のお正月を迎えました。東北の被災地では、昨年に比べ、元旦を落ち着いて過ごせたという人もいますが、持続的な復興まちづくりに向けてまだまだこれからが正念場です。

Civic Force が支援活動の拠点とする宮城県気仙沼市では、2012 年 12 月 31 日、仮設住宅などにおせちが届けられました。このおせちは、「年越しを少しでも前向きに過ごしてもらいたい」とイオン株式会社から提供され、Civic Force のパートナー団体である、ありすボックスやピースネイチャーラボ、Tree Seed など地域の NPO の協力を得て配布しました。おせちは、石川県金沢の有名料亭「銭屋」監修の和洋折衷三段重。合計 600 セットを気仙沼市内の仮設住宅 17 カ所と在宅高齢者宅、児童養護施設などに配りました。

受け取った方は、「日々の仕事や生活に追われ震災前のようにおせちの準備ができなかったので、本当にありがたい」「こんなに豪華なおせちをいただけで嬉しい」と喜んでいました。

元旦には、「美味しくいただいている」「年の瀬の忙しい時期のご好意に大変感謝している」と、配布した地元 NPO に電話をかけてきた方もいたそうです。

2013 年、より多くの方が昨年以上に良い 1 年を過ごせるようお祈りいたします。



厳しい時代だからこそ

Civic Force は、昨年、東日本大震災支援事業において、特に中長期的な視点で被災地の復興を支える「中長期復興支援事業」をスタートしました。また、自然災害が頻発するアジアにおいて、アジア 5 カ国のメンバーとともに新組織「アジアパシフィック アライアンス」を立ち上げました。

他方、昨年 12 月 7 日、東日本大震災の本震に誘発されたとされる最大震度 5 弱の東北地震が起こり、防災と減災の取り組みの大切さを改めて再確認しました。

災害は忘れたところにやってきます。

2013 年、私たちは東北での支援活動とともに、次の大規模災害に向けた準備として、企業・行政・NPO などとの連携体制強化に努めます。

低迷していた日本経済はまだ肌で実感できるほどの回復には至っておらず、震災から時間が経過するにつれ、被災地や私たち支援関係者にとっても厳しい状況が続くことが予想されます。Civic Force は、これまで以上に効果・効率性を最大限重視し、「必要とされる場所に届く支援」を実現するために、より一層の努力をしていきます。

被災地からメッセージが届きます。

Civic Force では、現在、年末年始のフィリピン応援募金を実施中です。12 月の台風の影響で今も避難生活を続けるフィリピンの被災者を支えてください。ご寄付は、被災地で活動続ける CDRC を通じて、被災者に届けられます。期間中にご寄付いただいた方には、フィリピンからのメッセージ入りハガキをお届けします。詳細は以下をご覧ください。

■期間：2012 年 12 月 21 日～2013 年 1 月 20 日

■寄付先： フィリピン台風被災者支援へのご寄付

詳細はこちら↓

<http://www.civic-force.org/news/news-1032.php>

「NPO パートナー協働事業」進捗報告

2011年4月から開始した Civic Force の「NPO パートナー協働事業」。被災した人々が地域の復興に向けて主体的に取り組む事業をサポートする今期では、2013年1月現在、6件の事業を実施中です。新規事業として、昨年から「岩手県臨床心理士会」「しんりん」との協働事業を開始しました。なお、NPO パートナー協働事業では、各団体の経営体制や事業内容を外部専門家と精査した上で資金提供し、毎月の報告を受けるほか、外部専門家とともに現地に赴きモニタリングを実施しています。詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.civic-force.org/emergency/higashinohon/npo/>

■新規事業

■しんりん×Civic Force

福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、再生可能エネルギーの利用に注目が集まっています。中でも東北地方は、土地面積の70%以上(470万ha)を森林が占め、森林資源を利用した新しいエネルギーを域内で生み出す動きに期待が高まっています。



こうしたなか、Civic Force は、木質ペレット燃料や国産材などの森林資源活用の推進を通じて持続可能な地域社会の実現を目指す NPO 法人「しんりん」への支援を昨年10月から開始しました。しんりんは、これまで協働してきた「日本の森バイオマスネットワーク」が中心となって設立。高知県に拠点を置く「土佐の森・救援隊」がノウハウの伝授や技術指導などを続けています。一次産業である林業を主体とした人材育成や雇用の確保を行い新たな復興産業としての位置づけを目指します。また、環境教育も視野に入れた“循環型社会”の形成促進を、被災地の現状に即した形で進めていきます。

具体的には、人材育成プログラムの実施、間伐材・未利用材の持続的搬出システムを構築するための木材集積場の運営などの活動を開始しています。



材・未利用材の持続的搬出システムを構築するための木材集積場の運営などの活動を開始しています。

■岩手県臨床心理士会×Civic Force

東日本大震災の発災から1年半以上が経過した今、これまで以上に被災者への精神的ケアが必要とされています。臨床心理士135人の会員から成る岩手県臨床心理士会は、震災後、被災県における数少ない“職能集団”として、電話相談や病院職員への心理教育、仮設住宅での健康セミナーなど計18の心のケア事業を展開してきました。

Civic Force の NPO パートナー協働事業では、当会の事業のうち、医療アクセスが脆弱な沿岸被災地において、臨床心理士のカウンセリングの質向上や技能強化、疲弊軽減、支援活動体制のサポートを行い、被災者の精神的、心理的安定につなげます。

具体的には、月1回を目安に、沿岸被災地2カ所で講師を招き“スーパービジョン”の機会を設けます。スーパービジョンとは、経験豊富な臨床心理士に指導を仰ぐことでカウンセリングの技能向上を目指すシステムのこと。NPO パートナー協働事業では、効果的なスーパービジョンのため、講師のアレンジや会場確保といった実施環境の整備を行います。また、被災後2年を迎えようとしている現状に即したストレスマネジメントなどに関する研修会を開催する予定です。

■実施中の事業(2013年1月11日現在)

－第Ⅲ期・第Ⅳ期事業－

(中長期的な視点をもつ地域復興のための
コミュニティ支援、まちづくり支援事業)

■森は海の恋人×Civic Force

宮城県気仙沼市唐桑町を中心に環境教育、森づくり、自然環境保全の3分野で活動する森は海の恋人は、大学や企業などと協力し、引き続き気仙沼の海に関する調査の結果や海とともにあるまちづくりについて考える機会を提供する事業を行っています。



■気仙沼みらい計画大沢チーム×Civic Force

宮城県気仙沼市唐桑町大沢地区の集団移転事業や復興まちづくり計画を進める気仙沼みらい計画大沢チームは、12月、13回目の「大沢みらい集会」を開き街並みのルールづくりなどを実施しました。

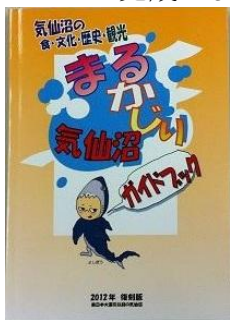
■ 気仙沼大島まちづくりサポート×Civic Force

宮城県気仙沼市の有人離島「大島」の新しいまちづくりを目指す気仙沼大島まちづくりサポート。昨年12月は、ほぼ毎週末、県内外から複数のボランティアを受け入れ、地元の人々と協力しながら農家や漁業の手伝い、被災した住宅の片付け、催し物の開催などを行いました。



■ スローフード気仙沼×Civic Force

震災前に発刊され、気仙沼の歴史と文化、自然を一冊にまとめた『まるかじり気仙沼ガイドブック』の復刻と地域資源発掘のための調査研究を行うスローフード気仙沼。昨年12月、ついにガイドブックが完成しました。本編は161ページ。前書



きには復興の経緯として、気仙沼の被災状況や復旧・復興への課題などが新たに加えられています。同団体は「この本を通して、気仙沼市民としてのアイデンティティを十分に踏まえた復興を進めるきっかけにしてほしい」と話しています。

■ 2 案件への出資決定 ー東北共益投資基金

被災地の産業復興を支援する一般財団法人東北共益投資基金は、2012年12月末から今月にかけて、以下2案件への出資を決定しました。

■ 株式会社 onagawa factory

復興起業家を支援するファンド「復興起業キャピタル」の第2号案件として、2012年末、宮城県牡鹿郡女川町で設立された「株式会社 onagawa factory」に500万円の出資をしました。

ものづくりを通じた被災者の経済的自立支援として、手工芸品の製作販売からスタートした復興プロジェクト“onagawa factory”を、次世代産業として確立させるための法人化をサポートします。具体的には、新たな商品開発や販路拡大などへの取り組みを支援します。



■ 女川町宿泊村共同組合

宮城県牡鹿郡女川町で、2012年12月末からトレーラーハウスの宿泊施設をオープンした「女川町宿泊村協同組合」に対し、500万円を私募債形式で拠出しました。同組合は、前営業地での復旧が困難な4つの旅館経営者によって設立。津波の被害で8割の建物が壊滅した女川町では、慢性的な宿泊不足で住民や復旧工事に従事する関係者が不便を強いられていましたが、トレーラーハウスの宿泊施設によって、地域経済活性化など年間3億円の経済効果が見込まれています。東北共益投資基金では、観光協会や町内の地場産業等と協力しながら、復旧を超えた観光誘致の新展開の構想を進める同組合を支援します。

皆様の“声”を募集中！

Civic Force が東日本大震災支援を開始してから約22カ月。この間、法人や個人の皆様に多くのご意見をいただきながら、事業を展開してきました。そのなかで「被災した東北の声を聞きたい」といったご意見をいただくようになりました。また、被災地からは「全国の人からたくさんの支援を受け、お礼の気持ちを伝えたい」「東北を忘れないで」などの声が寄せられています。

そこで、皆様の声を双方向にお伝えするため、Civic Forceに関わったことのあるすべての皆様からの“声”を募集いたします。

①復興に向けて今、被災地で取り組んでいること②東北への応援メッセージ③その他 のいずれかについて、info@civic-force.org にメッセージをお送りください。

上級救命講習などを受講

2012年末、全スタッフが東京・麴町消防署で上級救命講習を受講しました。胸骨圧迫や人工呼吸などの救命処置、AEDによる除細動の行い方、包帯法などについて学び、いざというときに動ける心構えを整えました。



翌日は、スフィア・スタンダード講習を受講。“人道支援”の現場において支援者が配慮しなければならないとされる国際基準「スフィア・スタンダード」の内容と実践方法について学びました。

ご存知ですか？ 寄付金控除について

今年も確定申告の時期が近づいてまいりました。Civic Force へのご寄付は、特定公益増進法人への寄付として税制優遇の対象となります。個人寄付者の皆さまは、「税額控除」か「所得控除」のいずれかを選択し、寄付金控除を受けることが出来ます。寄付金控除を受けるには、確定申告を行い、Civic Force 発行の領収書を添付する必要がありますので、領収書を必要とされる方は HP 上の領収書請求フォームよりご請求ください。

■領収書請求フォーム

<https://www.civic-force.org/contact/receipt/>

■寄付金控除の詳細

<https://www.civic-force.org/contribution/support/#tax>

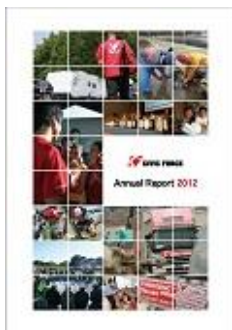
なお、Just Giving Japan (JG) 経由でご寄付いただいた皆さまにおかれましては、JG サイト上の「My ページ」から領収書をご請求ください。

「Civic Force の1年」が一目で分かる

日頃より Civic Force をご支援いただいている皆様へ、改めて心より御礼申し上げます。2012 年度 (2011 年 9 月～12 年 8 月末) の年次報告書を HP 上で公開しました。

<http://www.civic-force.org/news/news-1034.php>

なお、東日本大震災の支援企業様は以下のページでご紹介しています
<http://www.civic-force.org/emergency/higashinihon/supporter/>



「次への備え」は、企業の皆様とともに

Civic Force では現在、次の大規模災害発生に備え、平時からより多様な企業や団体との連携関係の構築に努めています。その活動の多くは法人賛助会員の皆さまに支えられています。引き続き多くの企業様の参加をお待ちしています。詳細は HP <http://www.civic-force.org/about/membership/> をご参照ください。なお、現在のパートナー企業様は以下にてご紹介しています。

<http://www.civic-force.org/about/partner/>

月々1,000 円からできること

Civic Force は、現在、次の大規模災害に向けた準備を始めていますが、平時から備えておくために、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額 (1,000 円単位) をご寄付いただく形で、大規模災害への備えに必要な活動に参加してください。

平時の活動へのご支援は下記口座で受け付けています。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805

(上記いずれも口座名義は「コウエキシャタンホウジン シビックフォース」です)

■クレジットカード：HP「オンライン募金」をクリックしてください。

https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation

1 日 1 回クリックするだけ

「クリック募金」は、一般的な募金と違い、募金する人が金銭を提供する必要がなく、「クリック一つ」で募金できる仕組みです。皆様のご協力をお願いいたします。

<http://www.clickbokin.ekokoro.jp/139.html>

<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>

メールマガジン「被災地の今を知る」について

Civic Force が国内外で展開中の事業についてお知らせするメールマガジン「被災地の今を知る」を、週 1 回、発行しています。被災地の様子や復興を担う人々の声、Civic Force の活動状況などに関する内容をお届けしています。ぜひメールアドレスをご登録ください。

<http://www.civic-force.org/mailmag/>

※毎月 11 日前後に発行しているマンスリー・レポートは、
<http://civic-force.org/news/monthly/> からご覧いただけます。

ソーシャルメディアでも発信しています



<http://twitter.com/#!/civicforce>



<http://www.facebook.com/civicforce>



<http://www.youtube.com/user/civicforceorg>